

別冊 萬福寺だより 萬福寺住職「活動記録」

カンボジア難民救済の活動について

(元)全日本仏教会国際文化局長・曹洞宗議会議員

安本 利正 (現在 84 歳)

テレビ報道で難民の窮状を知る

1979年(昭和54年)は春から秋まで、テレビニュースによるとカンボジア難民が国境を越えてタイ国に流入し、国境近辺の山林の中に野宿する人々が数万人、十数万人の難民キャンプが存在し、西欧の医師団やキリスト教徒が救援活動を続けていた。テレビニュースでは現地の悲惨な状況を克明に映している。それを見聞きする度に日本の仏教会も何か活動しなければならぬと思っていた。

10月頃に曹洞宗青年会の全国役員会が東京で開催された。会議が終って私はそのホテルの食堂へ行った。会議に出席した青年僧が4、5人でテーブルを囲んでいたが、席に空席があつたので許可を得て同席した。青年会の活動について多くの話題が挙がったが、私はカンボジア難民の話を出して、若い人たちは現地へ行く事を考えないかどうか尋ねた。

すると「行きたくても方法がない」「青年海外協力隊のような会があれば良いが、現実には方法がない」との返事であつた。では行く方法を作れば行くかと聞いたら、是非とも参加したい、との返事であつた。

現地での救援活動の方法を模索

後日になって私は旅行社へ電話をして、バンコク市内の住宅地で約10人位が住める家の1ヶ月の借家料、乗用車1台中古車で幾らか、1ヶ月の食費等について調査して欲しいと依頼した。2、3日後に返事が来た。住宅は1ヶ月3、5万円、中古車は2、3万から5万円、食費は自炊すれば人数によって随分相違するが5千円でも1万円でも自由自在との事である。こんな調子で考えてみると、20、30万円あれば実検出来ると思った。しかし航空料金が高かった。バンコク往復約10万円である。これを自己負担してくれば実検は可能である。

タイ人やカンボジア人の中から教育者を探し出せ

ば、幼児教育が可能であろう。私は20年前に日本の農村で自動車文庫(今でいう「移動図書館」)を運営した事を思い出していた。絵本や写真集が活用出来るから蠟印紙を使うには室温を20度以下に冷房すれば可能である。私は謄写印刷が得意であり、和文タイプでも原紙1枚で1千5百枚を手刷り印刷し、蠟原紙に手書き原紙ならば2千5百枚を手刷りする技術を持っていた。そのように工夫すれば、多種多様な活動が出来るであろうと思った。

12月20日、現地調査へ20人で出発

しかし、曹洞宗として活動するにはどうすればよいか色々考えていたところ、ある時宗務庁の廊下で吉岡棟一師に出会った。早速カンボジアの話をする、吉岡師もそれを話し合おうと思っていたと返事され、色々意見を交わした上で外務省の緒方貞子氏(前特命全権大使)を呼んで多くの人達と事情を聞く事で同意した。11月27日は宗議會議員が多く集るので、外務省に相談してこの日の緒方氏の都合を伺った。27日に緒方氏の報告を聞いた上で現地調査の必要を痛感して、その実現を計画し、年末多忙であるが12月20日出発、24日帰国、5日間の現地調査を計画し参加者を募集した。宗内各機関に依頼し、20人で出発した。

不衛生極まりないキャンプのトイレ

21日には現地で3班に分かれ、政府関係、大使館と商社関係、軍隊と交通関係、それぞれ情報を集めた。22日サケオ難民キャンプに見舞い品を贈呈し、事務局の報告を聞いて各部内を視察した。

私は3万5千人が野宿する大集団のトイレが気になって場所を尋ねた。中央道の突き当りにあると言う。4、5百メートル先で雑木林に突当り、道はT